

世界ベンチプレス選手権

リトアニア・カウナス大会報告

2017年5月22-27日

報告・写真：IPF国際審判

物江 毅

昨年から、一般・マスターズ・JR・SubJRが合同開催となった世界B P大会、日本からマスターズ36名、SubJR1名、JR9名、一般9名、同伴者も含めて総勢60名に迫ろうかという大選手団を率いるのは世界マスターズB P大会15連覇の女王・澤千代美J P A常務理事、5/20朝、成田と関空に別れての出発となった。

関空組は比較的トランジットがスムーズで、現地カウナスに明るい時間(といっても19時過ぎ)の到着であったが、成田組はコペンハーゲンで5時間の乗換え待ち時間となり、カウナスの宿舎Park innに到着したのは5/21の午前1:00時を回っていた。IPF殿堂入りの児玉選手が、成田組を出迎えて下さった。

一夜明け、夜のテクニカルミーティングまで空き時間という事で、各自カウナス市内観光に出かけ、私は総勢9名でカウナス市民の憩いの場所であるSantakos Parkasに向かった。日曜日で、好天に恵まれ地元の家族連れが楽しそうにいろいろな催し物に参加していた。外観は古い建物である教会の日曜礼拝には大勢の市民が集い、とても荘厳な雰囲気であった。私は減量のため固形物は口にせず、3€の地ビールを飲みながら、引馬にまたがり喜ぶ子供の姿などをぼんやり眺めていた。平和でのどかな気が休まる風景で、リトアニアの印象がとても良くなった。昨今世界各地でテロを起こす狂気な輩、宗教上の理由などもっともらしい理由は言っている、結局のところ利権がらみで、私腹を肥やすために人の命を奪おうとする最低なクズ共である。

20:00からのテクニカルミーティングでは、一人一人出欠を確認する従来のやり方ではなく、各クラスの欠席者を申告する方法であった。レフリーシフトは前もってIPFH.Pに発表されていたほぼその通りを技術委員長・ハニースミス氏が読み上げた。今回我々が宿泊したPark innが試合会場であったため、とても楽にコンディションを整える事が出来た。



大会初日(5/22) マスターズ男子59～83kg級 マスターズ女子47～52kg級

この日だけで、15名もの日本選手が出場、開会式前に行われた第一、第二セッションでは59kg級M2では中田さんが185kg、M4で浜山さんが120.5kgの世界新記録で優勝、そのほかの方もM1で池田さん、M2で椎木さんが、M3で橋本さんが2位、M4で大瀧さんが3位という素晴らしい成績であった。66kg級でもM4で段安さんが初出

審判紹介、物江審判員。レポートありがとうございました。



場・初優勝、佃さんが2位の1, 2フィニッシュ、初出場のM1天川さんが160kgで2位、M2中村さんが130kgで3位となり全員が表彰台に立った。段安さんは広島在住の歯科医師・中谷先生を介して10年来の私の友人で、一時私のTeam Ponzeに選手登録していたこともある。同年代の山本さんといつも全日本クラスの大会で好勝負を繰広げておられ、今回山本さんが74kg級に階級上げしたため、世界B P大会初出場となった。国際大会は一回出場するとハマるものである。これからもどんどんご出場いただきたい。

女子も健闘、47kg級M1で餘吾さんが82.5kgで三連覇、M2で柴田さんが2位、52kg級ではM1で伊藤由実子さん、M2で寺村美香さんが優勝、M4で古川さんが2位という素晴らしい結果となった。柴田さんも古川さんも第三試技では優勝を狙いトップの選手に重量を被せて挑むという健闘であった。

オープニングセレモニーを挟んだ男子74～83kgでも皆さん大健闘で、74kg級ではM1で松岡紀佳さん、M2で三島さん、M4で山本さんが優勝、山本さんは155kgの世界新記録を見事にプレス、M3で林さんが2位という素晴らしい成績、83kg級も負けてはならずM1で鈴木重成さんが、M4で今泉さんが夫々初優勝、M2で松岡俊夫さんが4位という素晴らしい結果で初日を終えた。

山本茂樹さんは70代半ばに差し掛かっておられるが、元々ノーギアB Pがとても強く、その強さを福田将志さんの指導により、ようやく開花させてという印象である。今年に入って私も試合前B T S Lでシャットレをさせていただく機会が多く、殆ど山本さんや長尾さんと一緒にトレさせていただいていた。山本さんの調子がどんどん上がるのを目のあたりにしていたが、今回の第三試技でもラック高の違いを落着いて指摘&訂正させ試技に臨まれた瞬間に成功を確信した。

林靖弘さんは、世界大会初参加の昨年デンマーク・ロドビー大会では悔しい失格、一月前に行われたワールドクラシックB Pキリン大会でも、セコンドと息が合わず、不本意な結果であったが、今大会はセコンドの工藤智恵子さんの好サポートにより、ほぼ思い通りの試技が出来、第三試技に成功すれば優勝であった。昨年私が「世界大会の借りは、世界大会でしか返せませんよ！」と発破をかけさせていただいた事を覚えておられたようである。林さんの自力であれば200kg B Pも可能であろうと思われる。是非とも頑張ってください。

なお、74kg級M3に出場した私は、第一、第二で150kgが取れず、挙げれば3位となる第三試技157.5kgにも失敗、世界大会12回目の出場で3度目の失格であった。浜松の全日本B P大会よりも直前練習では調子は上がっていたが、故障の右肩の影響が右が最後まで押し切れなかった。ただ今大会は後述するが審判が3シフト入り、そのうち2セッションは主審である。そのため以前の失格の際の様に落ち込んでいる暇はなかった(^_^)

大会二日目 (5/23) マスターズ女子 57～+ 84kg マスターズ男子 93kg級

この日の第一セッションマスターズ女子57～72kg級で私はテクニカルコントローラーを勤めた。このセッション日本女子選手は5名出場、全員優勝の可能性があった。57kg級M2では常勝・酒巻知子さんが100kgで優勝、澤さんに次ぐ世界大会10勝目であろうか？M3の長尾さんは第一試技ノーギアで試技、優勝決定後第二、第三試技で世界記録の85kgに挑むも惜しくも失敗、それでも世界戦三連覇である。63kg級M3では、こちらも常勝の古味良子選手が第一、第二試技を落としヒヤッとさせたが第三試技105kgに集中して成功して優勝、72kg級ではマスターズB Pの女王・



16 連勝を果たして、笑顔の澤選手



澤千代美今大会日本戦選手団団長が見事に 110 kg で 16 連勝の偉業達成、他の選手とは格が違うといった風格であった。同級 M 2 で優勝候補筆頭であった工藤智恵子さんは、練習では軽く成功している 100 ~ 105kg に残念ながら三試技とも失敗し残念な結果となった。涙に咽んだメダルセレモニー終了後、気持ちを落ち着かせた後で次回のリベンジを誓っていた 来年こそは是非とも表彰台中央に立ち、輝く笑顔を見せていただきたい！

男子 93kg 級には、M 1 に宮本さん、竹村さん、M 2 に飴谷さん、M 3 に酒井さんが出場した。竹村さんは第一試技 200kg、第二試技 212.5kg を順調にとり、第三試技で成功すれば暫定 3 位となる 245kg に果敢に挑む元気で 5 位と健闘。宮本さんは胸にバーがゆっくりつくフォームが主審から止まっていないと判断され、遅いプレスコールに苦しみ、255 kg を第一、第二試技とも失敗。後がなくなった第三試技同重量、今度は比較的プレスコールが早く、難なく成功し 2 位となった。飴谷さんは残念ながら 195kg に三試技とも失敗。酒井さんは第一試技 137.5kg、第二試技 147.5kg を確実に獲得し 2 位をゲットした。

女子マスターズのトリとして +84kg 級に出場した定連の小松麻実選手は、第一試技 105kg、第二試技 115kg に成功、第

三試技で成功すれば暫定 3 位の 125kg に挑んだが惜しくも失敗、5 位となった。それでも重量級の表彰台にあと一步と迫ったのは健闘といえるであろう！

大会三日目 (5/24) マスターズ男子 105 ~ +120kg 級

この日はマスターズの最終日という事で日本人選手の出場は 2 名であったが、チーム日本の勢いは止まらなかった。105 kg 級 M 1 では山森選手が第一試技で 272.5kg に成功し念願の世界大会初優勝を飾った。290kg からスタートした米国の優勝候補・Anderson 選手は 290kg に三回とも失敗し失格であった。120kg 級 M 2 では和田さんが 295.5kg の世界記録に第一試技から挑むも失敗、第二試技も落とし後がなくなったが、見事な集中力で第三試技同重量に成功、世界記録 & 世界チャンプを手にとめた。M 1 の中村敏雄選手は 205kg、217.5kg と順調に成功し、第三試技で何と 62.5kg UP の挙げれば 280kg に挑み見せ場を作ってくれた。

私はこの日第二セッションマスターズ男子 +120kg 級の主審を勤めた。国内での主審同様、選手が試技しやすい試合コート作りを心掛け、まずまずの出来のジャッジであったと自惚れている。終了後 M 1 で優勝した Jerome 選手のフランスチームから「ナイスジャッジ！」と称賛された。

この日でマスターズの競技は終了、20:00 からバンケットが開催された。成績発表でチーム日本は、男子は M 1, 2, 4 で団



選手は集中、ハラハラ役はセコンド陣

初優勝にガッツポーズは鈴木選手。



体優勝、M3は2位、女子はM2団体2位、個人戦で酒巻さんがベストリフター、寺村さんがベストリフター2位、M3団体優勝という過去最高クラスの好結果を表彰され、大いに盛り上がり各国選手とも楽しく交流した。

大会四日目 (5/25) SubJR 全階級 JR 女子 43 ~ 57kg級 JR 男子 53 ~ 83kg級

この日マスターズ組は、バスをチャーターして観光に出かけたが、私は夕方主審業務が入っており、午前中は試合鑑賞。

SubJR+120kg級に出場した怪物・藤本竜希選手はヘビー級の中でも一人だけ次元の違う310kgからスタート、第一試技同重量が二段上げで失敗しヒヤリとさせたが、第二試技で落ち着いて同重量に成功、第三試技では何と400kgを申請、なかなか主審のスタートがかからず、同重量を10秒近く保持してからのスタートとなり、下げる途中にグリップが外れて失敗という結果であったが、もちろんサブJRのベストリフターを2位を38ポイントも離して獲得、

試技終了後には試合を生中継していた地元テレビ局のゲスト解説者としても大活躍、このゲスト解説は翌日、翌々日も行われた。とても高校生とは思えない貫禄と語学力で、日本の若者でも国際的に活躍するビッグタレント出現というところであろうか。

JR57kg級には、櫻由貴選手が登場。私はこの後のセッションで主審を勤めるためコスチームチェックや検量に入っており、櫻さんの試技は見えていなかった。第一試技の85kgのみ成功で、3位、あわよくば2位を狙った第二、第三試技を落として4位という結果に泣いておられたと後で伺った。それでも国際大会二度目の出場での2位は大健闘であろうと私は思う。最終日のバンケットで櫻さんとは臨席となり少々話をさせていただいたが、とても芯の強いしっかりした中に優しさを感じる素晴らしいお嬢さんであった。その後IPFガストン会長からダンスに誘われ、宴席を楽しんでおられた。

この日の最終セッションには、日本勢が7名出場。主審のため主任検量官を勤めたが、名前をコールされ、検量室内に入ってきた7名の日本JR勢が、私が検量室の中心に座っているのを見て安堵の表情を浮かべていた。審判として今大会に参戦して良かったと思えた瞬間であった。

日本JR勢はとても強く、59kg級で村田元輝選手が200kgの世界記録で、66kg級で岡田治也選手が210kgで優勝、梶山選手が140kgで6位、74kg級で菊地洋介選手が227.5kgで、83kg級で村野知永選手が267.5kgでそれぞれ優勝、義友選手が222.5kgで4位、団体戦でも55点で優勝という最高に近い成績であった。74kg級に出場した逢野選手は、優勝した菊地選手と伯仲した実力の持ち主であるが、今回は残念ながら安定したBPが出来ず、第三試技227.5kgを挙げれば優勝の目も合ったが、不本意な結果に終わった。オープンとなる次回以降の大会で是非ともリベンジを果たしていただきたい！

今回のJR勢の中で国土館中学・高校出身の村野選手は、中学生の時からウエストトーキョー大会に出場しており、10年近くのキャリアを持つ。東京協会の先輩理事であった岩上勝男さんが「私の孫！」と可愛がり目をかけていた選手で、阪南大学に進学してからは、いろいろと悩むことも有った様であるが、JR最後の世界大会で見事に優勝&ベストリフター3位を残してくれた事に私としても感無量であった。会場のどこかで見守っていて下さっていたであろう天国の岩上さんが、喜んでおられると思うとメダルセレモニーで表彰台の中央に立つ村野君の雄姿を見て涙腺が緩んだ。



才能豊か、藤本選手(左)

「岩上さん、孫がやりましたよ！」

この日の主審もほぼ思い通りにやれたが、岡田選手の第三試技で、白2:赤1の判定(私は白)を、足がバタついていたという理由で陪審員3名が不成功と判断、スミス技術委員長から判定覆しが告げられた。主審の位置からは見えない場所であり、主審としての判定は間違っていなかったと今でも思っている。

大会五日目 (5/26) JR 女子 63 ~ +84kg級 JR 男子 93 ~ +120kg級

一般男子 59・66kg級 一般女子全階級

各国のマスターズ組がごっそりと帰国の途につき、やや寂しげな雰囲気が漂う会場であったが、好記録続出の一般男女の部が開始され、世界一のベンチプレッサーを決める大会として昨日までとは違った盛り上がりとなった。

一般女子の63kg級で優勝したドイツの Gundula 選手は第一試技 162.5kgに成功し優勝決定、その後第二試技 167.5kgにも軽々と成功し、第三試技では何と 185kgの世界記録に挑み惜しくも失敗という驚異的な強さでかつとてもチャームな女性であった。このクラスに出場した奥谷由香選手は3位争いをする力量があったが、残念ながら 115kgを3回失敗という残念な結果となった。ご主人と場内に「鬼」ブースを開設、ウェアやグッズを販売しておられたが、そちらの疲れが出たのであろうか？

JR 男子 105kg級に出場した富山選手は第二試技で 210kgに成功し6位となったが、第三試技では暫定3位を狙い255kgに果敢に挑戦した。

一般男子が 17:00 から開始され、いずれも世界大会でのリベンジを誓っていた野田俊彦選手と福田将志選手が登場した。

野田さんは軽めの 195 から入り第二試技 202.5kgにも軽々成功、追ってくる選手がなく格が違うという印象で第三試技では 210.5kgの世界記録にも成功した。長い不調からやっと脱出した野田さんには、BPの絶対王者・児玉さんの道を歩んでいただきたい。

福田将志さんは、左尺骨二本骨折の大怪我から見事に立ち直り、児玉さんとの交流から編み出した独特のアプローチ BP フォームを見事に習熟され、235kgの第一試技では主審が赤をつけたが、第二試技 241.5kg (世界記録)を決め、世界記録保持者のロシアの Yan 選手が第三試技で 247.5kgにいどみ絡んできたが、Yan 選手が同重量失敗後、申請し



世界の第一人者、児玉選手

ていた 250kg を 248kg に下げ、見事に同重量に成功、初めての世界タイトル & 世界記録をゲットした。福田さんのジム BTSL(前ストロングライン)では、酒巻さん、山本さん、長尾さんの今回 3 名の優勝者もトレをしており、皆さんよりも格落ちであるが、私も大会前のシャットレにお伺いしている。これで一挙に 4 名の世界チャンプが所属するジムになられた事、お世話になっている一人としてとても喜ばしい事である。

この日最後のセッションに登場した一般女子 72kg 級溝口久美選手は、残念ながら 170kg に三回とも失敗という結果となった。175kg を挙上する実力の持ち主の久美さん二位は、次回のリベンジを期待したい！

私はこの日、昨日までの審判業務から解放され気楽な気持ちで試合を観戦していたが、スミス氏から「明日の第一セッションの副審に入れるか？」と問われ、審判不足の現状を理解したため「OK!」と返事をした。そのセッションは男子 74・83kg 級、日本が誇る二大ベンチプレスラー・児玉 & 福島選手が出場するセッションであった。

大会六日目 (5/27 最終日) 男子 74 ~ +120kg 級

私は児玉選手と同じ 74kg 級であるため、児玉さんの試技をジャッジしたことがなく、数年前栃木での全日本 BP 大会で T/C を勤めたのが唯一の審判例である。その児玉選手の試技を副審としてじっくり拝見させていただき、まさに世界最高のベンチプレスラーという認識を新たにした。安定した下半身、理想的なブリッジ & 胸の高さ、肘の伸び、グリップ、どれをとっても現在の BP 界の最高技術の結晶を思わせるまさに IPF 殿堂入りに相応しい芸術品 BP であった。このセッション 20 名の選手が出場したが、判定がやや辛く、三試技成功したのは児玉さんのみであった。同じ 74kg 級には、児玉さんの弟子筋の佐藤優輝選手も出場していた。大幅な減量による影響が第一試技 215kg のみ成功で 6 位という結果であった。

83kg 級には、新婚の福島勇輝選手と本年からオープンとなった大室剛槻選手が出場した。ライバルは福島さんと毎回死闘を繰り広げるロシアの Sergey。第一試技福島さんは 282.5kg を押し切れず失敗、大室君は 290kg を確実に成功、Sergey 選手は M1 世界記録の 300kg に成功し一歩リード。福島さんは第二試技同重量を今度は落ち着いて押し切り、大室君は 12.5kg UP の 302.5kg に見事な集中力及び粘りで成功、Sergey 選手は 305kg に失敗した。ここまでの試合経過でカザフの Askar 選手が 285-292.5kg に成功、大室-Sergey-Askar-福島という暫定順位であった。福島さんは第三試技で挙げれば体重差トップの 302.5kg に挑むも押し切れず、4 位となった。Askar 選手は 2 位狙いに

切り替え 302.5kg に挑み失敗、Sergey 選手は 307.5kg を押し切れず 2 位、大室君は優勝決定後 310.5kg の世界記録に挑んだが失敗であった。しかしながら、福島 & Sergey という 83kg 級の二大看板をまとめて破った 24 歳の若者、これからどこまで強くなるのか、とても楽しみである。

この日の第二セッションは 93・105kg 級、93kg 級に長谷川直輝選手、105kg 級に葛西昌彦選手が出場した。いずれも優勝争いをする力を有しているが、各選手の力が接近しており、混戦となると思われた。

長谷川君はカレンダーイヤー 25 歳の若武者で、ノーギア・フルギアともめきめき強くなっている。今回第一試技 307.5kg を確実に獲り、第一試技終了後は 2 位であった。その後第二試技 312.5kg に失敗、挙げれば暫定トップの第三試技 320kg も残念ながら失敗であったが、大健闘の 3 位であった。このクラス優勝はロシアの Tevenkov 選手、330.5kg の世界新記録であった。

葛西さんは、3 月の浜松の全日本 BP 大会でとても安定した BP で優勝していた。マスターズの部に出れば断トツで優勝する力であったが、オープンの世界王者を狙っての参戦であった。ところが試合というのは本当にやってみなければ判らない。315kg のさほど無理ではないと思われる重量に第一、第二試技とも失敗



後がない第三試技、挑むは、葛西選手

し、後がなくなった第三試技 3 位狙いで 325kg に挑んだが残念ながら失敗という残念な結果となってしまった。葛西さんにも次回のリベンジを期待したい！

世界 BP 大会オープンの部男子は優勝者を 4 名出した日本が合計 56 点で優勝、重量級で追撃してきたロシアに 7 点差の勝利であった。

私は世界大会に来ると最重級は必ず観戦していたが、今回は六日間の長丁場で、精神的に疲れてしまい、この日はこれで会場を退散、澤団長・野田さん・HIS の佐藤さんと昼食を食べに、チームジャパン内で評判となったホテル近くのイタリア料理店 Mirano に行き、とてもリーズナブルで美味しいパスタやピザを堪能した。

その間に 120kg 級でモンゴルの Bujinkham 選手と Bataa 選手が 352.5kg、347.5kg で 1, 2 フィニッシュ、メダルセレモニーで会場にモンゴル国歌が流れた。後でこの事をこのレポートを書いている途中に気づき、とても残念であった。世界 BP 大会で一番盛り上がる国家はフランスのラ・マルセイエーズであるが、アジア大会で聞いた大平原を感じさせる雄大なモンゴル国歌もとても印象的であった。

この日 20:00 から SubJR & JR& オープンの部のバンケットが開催され、マスターズの部とは打って変わった、各国選手の踊りの輪の中心でハッスルする福島勇輝さんを中心とした日本の若手選手澆漑さを感じ、席が近かった児玉選手の人間の器の大きさを感じて眺める事になった。児玉さんは断トツで年齢が違う澤団長と私に気を遣いながら、若手の動向にも気を配り、盛り上がったチームジャパンの中心に常に存在していた。その宴席メンバーに対する差配は見事というほかになく、是非とも JPA の要職に就任してほしいという想いがとても強くなった。

翌 5/27 はチームジャパンでバスをチャーターしての観光、私にとっては半分は今回の滞在中に訪れた場所であるが、好天に恵まれ美しいリトアニアの風景に触れることが出来、とても楽しい一日となった。

日本のフルギア BP は世界一である事が証明できた試合に、選手 & 審判でかかわる事が出来た、とても幸せな一週間であった！



ベストリフターを獲得した日本の女性達





選手の思いが あふれる表彰式



世界ベンチプレスチャンピオンに輝いて

野田 俊彦

皆様の応援、サポートのお陰様で2010年の世界選手権（67.5kg級）で優勝した以来、7年ぶりに59kg級で世界新記録を樹立し、世界一に再び咲くことができました。

去年10月のアジア選手権で失格、今年の日全日本選手権では辛くも優勝することができましたが、まだまだ対策不足で自分の弱点があり、それを修正する練習を積んできました。

また、今年に入り、メニューの考え方を大幅に変えた結果それが上手くいって、ノーギアも過去最高に調子がよかったのもあり、今回は万全な状態で臨むことができました。

日本選手団の中に東京都協会ですいつも世話になっている、物江さん、澤さんがいらっしやることで、世界大会にはいるのですが地元にいるような雰囲気にもなり環境的にも落ち着いていたのも大きかったと思います。

怪我をする前の67.5kg級時代は、ここまで考えなくても勝ってきてしまい、今思えば自分には勝負運があったなと思います。復帰してから実力不足はもちろんありますが、いろいろと考えすぎて裏目に出てしまったり、勝つために必要な勝負運にも見放された感がありました。今年に入り、強さとその運がまた戻ってきて、やっと本来の自分が帰ってきた感じです。勝つための難しさを改めて知ることができた期間となり、指導にも役立つ経験を得ることができました。

パワーハウスの皆様を始め、ずっと休んでいたときもサプリメントをサポートしてきてくださったマッスルプロダクション代表のふじたさん、そして酸素カプセルを自宅に設置してくださったワールドネットインターナショナル株式会社代表の中嶋社長には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも結果を出して少しでも恩返しできればと思っております。

◇全日本選手権、アジア、世界選手権大会戦歴

第18回全日本選手権・・・失格（67.5kg級）

第19回全日本選手権・・・優勝

2008年世界選手権（チェコ）・・・金メダル

2008年アジア選手権（香港）・・・金メダル（世界新記録）

第20回全日本選手権・・・優勝

2009年世界選手権（ルクセンブルク）・・・銅メダル

第21回全日本選手権・・・優勝（世界新記録）

+ベストリフター

2010年世界選手権（アメリカ）・・・金メダル

第22回全日本選手権・・・棄権（怪我のため）

第23回全日本選手権・・・不参加

第24回全日本選手権・・・不参加

第25回全日本選手権・・・不参加

第26回全日本選手権・・・準優勝（59kg級）

第27回全日本選手権・・・準優勝

2016年アジア選手権（ウズベキスタン）・・・失格

第28回全日本選手権・・・優勝

2017年世界選手権（リトアニア）・・・金メダル（世界新記録）



世界ベンチプレス選手権大会結果

5/22-27、カウナス、リトアニア

IPFホームページより

Open

-59kg

1	Noda Toshihiko	1979	JPN	58,70	195,0	202,5	210,5-w	210,5
2	Karaman Abdulkarim	1994	KAZ	58,70	185,0	190,0	205,0	190,0
3	Garashchenko Ihor	1988	UKR	59,00	190,0	190,0	X	190,0
4	Smirnov Oleg	1990	RUS	57,75	185,0	190,0	190,0	185,0
5	Khailyamov Yernur	1994	KAZ	58,35	185,0	195,0	200,0	185,0
6	Myrvang Fredrik Eskil	1990	NOR	56,70	167,5	175,0	180,0	175,0
7	Wszola Dariusz	1978	POL	58,65	172,5	180,0	180,0	172,5
8	Johnson Jesse	1990	GBR	58,60	110,0	120,0	130,0	120,0

-66kg

1	Fukuda Masashi	1984	JPN	65,65	235,0	241,5-w	248,0-w	248,0
2	Urusov Yan	1989	RUS	65,55	225,0	235,0	247,5	235,0
3	Yermakhanov Yeldos	1990	KAZ	65,80	212,5	220,0	237,5	220,0
4	Frasl Andreas	1983	AUT	65,50	210,0	210,0	235,0	210,0

-74kg

1	Kodama Daiki	1979	JPN	72,55	250,0	265,0	275,0	275,0
2	Butenko Oleg	1983	KAZ	73,20	255,0	255,0	255,0	255,0
3	Selberg Amit	1976	SWE	73,40	245,0	245,0-w1	257,5	245,0
4	Balawejder Adam	1981	POL	73,90	225,0	235,0	235,0	235,0
5	Dronga Renars	1988	LAT	73,35	230,0	242,5	245,0	230,0
6	Sato Yuki	1983	JPN	73,55	215,0	225,0	232,5	215,0
-	Batgerel Bayarbaatar	1991	MGL	73,60	240,0	245,0	247,5	DSQ

-83kg

1	Omuro Goki	1993	JPN	82,60	290,0	302,5	310,5	302,5
2	Kniazev Sergey	1976	RUS	82,25	300,0-w1	305,0	307,5	300,0
3	Shokhanov Askar	1983	KAZ	82,85	285,0	292,5	302,5	292,5
4	Fukushima Yuki	1986	JPN	81,75	282,5	282,5	302,5	282,5
5	Beloborodov Maxim	1983	RUS	82,00	275,0	285,0	292,5	275,0
6	Friche Mads	1982	DEN	81,90	242,5	252,5	260,0	252,5
7	Beck-Gundersen Kim	1985	NOR	82,00	245,0	250,0	267,5	250,0
8	Sotolar Jozef	1980	SVK	82,55	235,0	245,0	245,0	245,0
9	Guenterberg Raik	1989	GER	82,60	242,5	250,0	255,0	242,5
10	Batsukh Gansukh	1988	MGL	82,70	230,0	240,0	250,0	240,0
-	Wang Joakim	1983	SWE	81,90	245,0	245,0	247,5	DSQ
-	Zalewski Rafal	1983	POL	82,65	270,0	270,0	270,0	DSQ
-	Hanifen Luke	1981	USA	82,80	247,5	247,5	247,5	DSQ

-93kg

1	Tebekov Eduard	1990	RUS	92,30	317,5	317,5	330,5-w	330,5
2	Mamola Adam	1977	USA	92,55	312,5	320,0	320,5	312,5
3	Hasegawa Naoki	1992	JPN	92,30	307,5	312,5	320,0	307,5
4	Wegiera Jan	1965	POL	92,70	305,0	305,0	310,0	305,0
5	Krymov Andrii	1985	UKR	92,90	305,0	312,5	315,0	305,0
6	Navarsete Roger	1990	NOR	92,40	285,0	292,5	292,5	285,0
7	Masahito Kitsui	1978	HKG	92,25	260,0	275,0	280,0	275,0
8	Myagmarsuren Galsaikhan	1988	MGL	92,40	227,5	237,5	240,0	240,0
9	Tuhacek Zdenek	1986	CZE	92,60	220,0	232,5	232,5	220,0
-	Hintzke Mariusz	1994	POL	92,25	305,0	310,0	315,0	DSQ
-	Navarsete Tommy	1978	NOR	92,60	275,0	275,0	277,5	DSQ

-105kg

1	Grishaev Vladimir	1981	RUS	103,75	320,0	327,5	332,5	332,5
2	Dashzegve Tumenjargal	1987	MGL	103,00	312,5	315,0	330,0	330,0
3	Bettiar Volodymyr	1984	UKR	104,80	315,0	322,5	330,0	330,0
4	Suyunshaliyev Arslan	1989	KAZ	104,20	317,5	317,5	322,5	322,5
5	Jamroz Stefan	1980	SWE	104,70	322,5	322,5	325,0	322,5
6	Selinger Milan	1984	CZE	104,70	275,0	282,5	287,5	275,0
7	Karkula Marcin	1987	POL	99,60	260,0	270,0	275,0	270,0
8	Barthel Frank	1980	GER	104,05	270,0	270,0	270,0	270,0
9	Seeger George	1992	GBR	100,95	190,0	200,0	202,5	200,0
-	Grabowski Jakub	1990	POL	94,40	285,0	285,0	X	DSQ
-	Stroshine Timothy	1978	USA	95,65	282,5	282,5	282,5	DSQ
-	Jaimes Luis	1989	USA	103,85	292,5	292,5	292,5	DSQ
-	Kassai Masahiko	1971	JPN	104,20	315,0	315,0	325,0	DSQ

-120kg

1	Bujinlkham Altangerel	1976	MGL	119,40	345,0	352,5	352,5	352,5
2	Bataa Chimedtseren	1981	MGL	118,45	337,5	347,5	352,5	347,5
3	Stewart Brady	1982	USA	119,55	335,0	340,0	350,0	340,0
4	Selezen Sergey	1980	RUS	119,75	330,0	340,0	350,0	340,0
5	Nilsson Per	1974	SWE	118,30	300,0	332,5-c1	347,5	332,5
6	Leesmann Kaido	1969	EST	119,00	275,0	285,0	290,0	285,0
7	Sharp Duncan	1983	GBR	116,60	260,0	265,0	280,0	265,0
8	Skikas Saulius	1988	LTU	117,00	225,0	232,5	237,5	237,5
—	Hole Per Marius	1989	NOR	118,30	330,0	330,0	340,0	DSQ

120+kg

1	Lehto Ove	1972	FIN	155,30	352,5	357,5	385,0-c1	385,0
2	Leo Jonathan	1977	USA	161,00	385,0-w1	410,5	410,5	385,0
3	Sandvik Kenneth	1975	FIN	140,95	347,5	352,5	357,5	352,5
4	Matejik Fridrich	1983	SVK	133,00	305,0	325,0	330,0	330,0
5	Zawilinski Michael	1980	USA	183,00	325,0	325,0	355,0	325,0
6	Pettersson Niklas	1991	SWE	150,70	322,5	322,5	357,5	322,5
7	Hrytsan Bohdan	1981	UKR	149,90	292,5	307,5	322,5	307,5
—	McCull Alastair	1981	NOR	142,10	347,5	352,5	357,5	DSQ
—	Spingl Milan	1980	CZE	143,25	310,0	310,0	310,0	DSQ

Nation (points)

1.	Japan	56	[12+12+12+12+8]	975,78 w.pts.
2.	Russia	49	[12+12+9+9+7]	990,37 w.pts.
3.	Kazakhstan	41	[9+9+8+8+7]	912,08 w.pts.
4.	Mongolia	34	[12+9+9+3+1]	913,62 w.pts.
5.	U.S.America	32	[9+9+8+6]	777,71 w.pts.
6.	Ukraine	26	[8+8+6+4]	723,75 w.pts.

Best Lifters of Open

1	Lehto Ove	Finland	155,30	385,0	211,98
2	Leo Jonathan	U.S.America	161,00	385,0	210,87
3	Tebekov Eduard	Russia	92,30	330,5	208,38

Sub-Juniors**-53kg**

1	Vasilyev Sergei	1999	RUS	52,60	110,0	120,0	130,0	120,0
2	Stankevich Albert	2002	BLR	52,70	72,5	77,5	80,0	77,5

-59kg

1	Balogh Natan	2000	HUN	58,35	140,0	145,0	155,0	155,0
2	Khabidulla Zhanassyl	1999	KAZ	58,30	140,0	140,0	152,5	152,5
3	Zhazymov Nyrzhan	2000	KAZ	57,90	135,0	140,0	150,0	150,0
4	Longoria Matthew	2000	USA	58,20	127,5	137,5	147,5	147,5

-66kg

1	Grigoryev Alexander	1999	RUS	65,40	172,5	182,5	186,0-ws	186,0
2	Kalinin Vasili	1999	RUS	64,80	160,0	165,0	172,5	172,5
3	Bauyrzhan Aidar	1999	KAZ	65,00	162,5	167,5	175,0	162,5
4	Sukhbaatar Sukhbat	1999	MGL	65,70	150,0	162,5	172,5	162,5

-74kg

1	Anuarov Adlet	1999	KAZ	73,15	185,0	192,5	195,0	195,0
2	Korolev Pavel	2000	RUS	72,50	170,0	180,0	192,5	192,5
3	Shaikatov Daniyar	2000	KAZ	72,20	110,0	140,0	140,0	140,0

-83kg

1	Vykhtar Anton	1999	RUS	74,30	177,5	187,5	195,0	195,0
2	Konovnitcin Sergei	1999	RUS	79,40	160,0	167,5	167,5	167,5
3	Grobos Mindaugas	1999	LTU	76,85	145,0	145,0	152,5	152,5
4	Majek Marek	1999	POL	80,60	140,0	147,5	150,0	150,0
5	Karaliunas Ignas	1999	LTU	76,95	140,0	147,5	152,5	147,5

-93kg

1	Siauciunas Kestutis	1999	LTU	92,20	165,0	170,0	175,0	175,0
2	Annuk Gregor	1999	EST	92,35	150,0	167,5	172,5	150,0
3	Israilov Murat	2000	KAZ	83,95	110,0	125,0	150,0	125,0

-105kg

1	Volodin Sergei	1999	RUS	101,40	180,0	195,0	205,0	205,0
---	----------------	------	-----	--------	-------	-------	-------	-------

-120kg

1	Grigoryev Mikhail	1999	RUS	117,80	170,0	177,5	185,0	185,0
2	Ruut Mihkel	1999	EST	105,10	162,5	170,0	177,5	170,0
3	Zajac Bartosz	1999	POL	105,85	160,0	160,0	172,5	160,0
4	Ruta Albert	2002	POL	117,35	125,0	130,0	135,0	130,0

120+kg								
1	Fujimoto Ryuki	2000	JPN	133,70	310,0	310,0-ws	400,0	310,0
2	Leskovets Nikita	1999	RUS	134,65	250,0	260,0	260,0	260,0
3	Siaucinas Vilius	1999	LTU	122,00	165,0	170,0	180,0	180,0
Nation (points)								
1.	Russia	60	[12+12+12+12+12]	634,30	w.pts.			
2.	Kazakhstan	45	[12+9+8+8+8]	638,98	w.pts.			
3.	Lithuania	34	[12+8+8+6]	423,65	w.pts.			
4.	Poland	22	[8+7+7]	272,41	w.pts.			
5.	Estonia	18	[9+9]	196,10	w.pts.			
6.	Japan	12	[12]	174,50	w.pts.			
Best Lifters of Subjuniors								
1	Fujimoto Ryuki		Japan	133,70		310,0		174,50
2	Grigoryev Alexander		Russia	65,40		186,0		147,15
3	Leskovets Nikita		Russia	134,65		260,0		146,17
Juniors								
-53kg								
1	Klimenko Georgii	1995	RUS	52,80	150,0	160,0	167,5	167,5
2	Valciukas Egidijus	1998	LTU	52,85	152,5	162,5	162,5	152,5
3	Bexeiit Sultan	1998	KAZ	52,85	140,0	150,0	152,5	140,0
-59kg								
1	Murata Motoki	1997	JPN	58,55	190,5-wj	200,0-wj	210,5	200,0
2	Sait Abdulaziz	1995	KAZ	57,45	120,0	150,0	165,0	150,0
3	Zadeikis Tadas	1998	LTU	57,20	85,0	95,0	107,5	107,5
-66kg								
1	Okada Haruya	1996	JPN	65,60	210,0	210,0	225,5	210,0
2	Paszko Andrzej	1994	POL	66,00	182,5	197,5	205,0	205,0
3	Makhmudov Alisher	1995	KAZ	64,02	195,0	202,5	210,0	202,5
4	Tulegenov Kuanyshebay	1998	KAZ	65,35	195,0	202,5	207,5	202,5
5	Ruzimuradov Ruslan	1998	UKR	65,80	182,5	192,5	205,0	192,5
6	Kajiyama Yuki	1995	JPN	61,70	120,0	140,0	140,0	140,0
-74kg								
1	Kikuchi Yosuke	1995	JPN	72,90	220,0	227,5	246,0	227,5
2	Eriksson Alexander	1994	SWE	73,95	217,5	222,5	222,5	222,5
3	Shaikatov Zhavlan	1998	KAZ	73,50	210,0	220,0	225,0	220,0
4	Timofejevs Sergejs	1994	LAT	73,65	215,0	220,0	222,5	215,0
5	Vorotilin Valery	1995	RUS	73,05	210,0	220,0	222,5	210,0
6	Motiecius Albertas	1994	LTU	72,40	172,5	182,5	192,5	182,5
-	Ono Takahiro	1994	JPN	72,40	225,0	227,5	227,5	DSQ
-83kg								
1	Murano Tomohisa	1994	JPN	81,60	220,0	240,0	267,5	267,5
2	Musiienko Kostiantyn	1997	UKR	82,15	240,0	245,0	250,0	240,0
3	Malevskis Klaudijus	1996	LTU	81,95	215,0	222,5	225,0	225,0
4	Yoshitomo Yuki	1995	JPN	79,85	195,0	205,0	222,5	222,5
5	Bilyk Andriy	1998	UKR	82,15	190,0	197,5	207,5	207,5
-93kg								
1	Zalotov Artur	1998	UKR	92,30	257,5	265,0	272,5	272,5
2	Schuster Easton	1996	USA	92,60	260,0	260,0	267,5	260,0
3	Reiss Andrew	1994	USA	91,65	235,0	240,0	265,0	240,0
4	Flueras Christian	1996	GER	91,40	205,0	210,0	215,0	215,0
5	Lange Marcin	1997	POL	90,20	190,0	200,0	210,0	190,0
-105kg								
1	Savelyev Egor	1994	RUS	104,40	292,5	307,5	320,5-wj	320,5
2	Zhukovskiy Mykyta	1995	UKR	101,00	257,5	267,5	272,5	272,5
3	Haerter Daniel	1995	GER	104,10	255,0	262,5	262,5	262,5
4	Hansson Conrad	1994	SWE	100,30	250,0	255,0	255,0	255,0
5	Kudrautsau Aleh	1998	LAT	104,75	240,0	260,0	265,0	240,0
6	Tomiyama Yasuaki	1995	JPN	94,10	205,0	210,0	255,0	210,0
-120kg								
1	Simahin Roman	1996	RUS	105,30	290,0	295,0	300,0	300,0
2	Skrib Lukas	1994	SVK	112,30	270,0	285,0	285,0	285,0
3	Male Ralf	1994	NOR	105,50	282,5	282,5	302,5	282,5
4	Sauter Dennis	1994	GER	117,35	255,0	265,0	285,0	265,0
5	Agadzhanian Artem	1995	LAT	119,80	255,0	262,5	272,5	262,5
6	Cowman Mitchell	1997	USA	107,30	215,0	215,0	227,5	215,0
-	Gustafsson Emil	1994	SWE	119,75	265,0	267,5	272,5	DSQ

120+kg								
1	Jaeger Kevin	1995	GER	127,95	375,0	411,0	X	375,0
2	Mellor Graham	1994	GBR	165,65	260,0	280,0	310,0	280,0
3	Nemov Vladislav	1996	RUS	131,50	225,0	240,0	252,5	252,5
Nation (points)								
1.	Japan	55	[12+12+12+12+7]	838,09 w.pts.				
2.	Russia	50	[12+12+12+8+6]	827,76 w.pts.				
3.	Ukraine	42	[12+9+9+6+6]	789,08 w.pts.				
4.	Kazakhstan	40	[9+8+8+8+7]	750,74 w.pts.				
5.	Germany	34	[12+8+7+7]	659,45 w.pts.				
6.	Lithuania	30	[9+8+8+5]	527,71 w.pts.				
Best Lifters of Juniors								
1	Jaeger Kevin		Germany	127,95	375,0			212,74
2	Savelyev Egor		Russia	104,40	320,5			191,92
3	Murano Tomohisa		Japan	81,60	267,5			180,40
Masters 1								
-59kg								
1	Sledz Slawomir	1976	POL	58,40	165,0	170,0	175,0	170,0
2	Ikeda Naoya	1970	JPN	59,00	155,0	175,0	175,0	155,0
3	Tollikko Ari-Pekka	1970	FIN	58,95	100,0	120,0	130,0	120,0
-66kg								
1	Bernard Mickael	1970	FRA	64,60	197,5	200,0	205,0	197,5
2	Amakawa Akinori	1977	JPN	64,70	155,0	160,0	177,5	160,0
3	Petrencak Steve	1968	USA	65,10	147,5	152,5	162,5	152,5
—	Holmgren Marcus	1975	SWE	65,80	140,0	140,0	155,0	DSQ
-74kg								
1	Matsuoka Kiyoshi	1971	JPN	73,30	200,0	205,0	231,5	205,0
2	Zelazko Bartosz	1973	POL	73,30	195,0	200,0	207,5	195,0
3	Ruelan Miguel	1970	USA	73,90	192,5	192,5	192,5	192,5
4	Szendera Rafal	1971	POL	72,45	190,0	192,5	192,5	190,0
5	Bastien Renald	1973	FRA	73,40	150,0	160,0	180,0	160,0
-83kg								
1	Suzuki Shigenari	1973	JPN	82,00	215,0	222,5	260,5	222,5
2	Pinguet Cyril	1972	FRA	82,10	217,5	217,5	225,0	217,5
3	Turek Martin	1972	CZE	82,50	210,0	210,0	212,5	210,0
4	Walczak Eryk	1977	POL	82,70	200,0	207,5	212,5	207,5
5	Nebola Vladimir	1970	CZE	82,25	202,5	207,5	210,0	202,5
6	Cieplak Daniel	1973	POL	82,95	195,0	202,5	212,5	195,0
7	Bochmann Danny	1976	GER	82,00	150,0	152,5	155,0	155,0
-93kg								
1	Nocek Grzegorz	1973	POL	90,40	260,0	260,0	290,0	260,0
2	Miyamoto Takayuki	1973	JPN	91,60	255,0	255,0	255,0	255,0
3	Wetzstein Thomas	1974	AUT	92,90	255,0	255,0	262,5	255,0
4	Grohoski Pete	1970	USA	92,80	245,0	245,0	255,0	245,0
5	Takemura Akihisa	1973	JPN	91,50	200,0	212,5	245,0	212,5
6	Amosovas Zanas	1975	LTU	92,00	212,5	217,5	217,5	212,5
7	Dawidowicz Robert	1972	SWE	92,70	207,5	215,0	215,0	207,5
8	Nieland Guido	1970	GER	92,25	187,5	195,0	202,5	202,5
9	Ronkainen Petri	1972	FIN	92,65	180,0	187,5	200,0	187,5
10	Truchon Robert	1968	CAN	91,45	95,0	105,0	110,0	110,0
—	Laurikainen Petteri	1969	FIN	91,20	215,0	232,5	232,5	DSQ
—	Marneur Michel	1968	FRA	92,10	240,0	240,0	245,0	DSQ
-105kg								
1	Yamamori Tomoyuki	1972	JPN	104,50	272,5	280,0	292,5	272,5
2	Beyon Frederic	1975	FRA	103,80	252,5	252,5	255,0	252,5
3	Rabineau Tony	1973	FRA	104,30	250,0	250,0	255,0	250,0
4	Green Martin	1974	GBR	104,60	250,0	250,0	255,0	250,0
5	Gack Kenneth	1970	USA	104,50	220,0	235,0	252,5	235,0
6	Rukkila Timo	1972	FIN	104,10	190,0	200,0	200,0	190,0
7	Lillbacka Timo	1975	FIN	104,50	145,0	150,0	155,0	150,0
—	Anderson Timothy	1972	USA	103,70	290,0	290,0	290,0	DSQ
-120kg								
1	Kompelien Olav	1972	NOR	118,30	302,5	302,5	307,5	302,5
2	Krejca Zbynek	1974	CZE	119,65	300,0	305,0	305,0	300,0
3	Gill Ryan	1976	USA	117,95	265,0	277,5	282,5	282,5
4	Duval Charles	1972	FRA	119,20	280,0	290,0	300,0	280,0

5	Zimmermann Wolfgang	1968	GER	116,15	265,0	270,0	280,0	270,0
6	Dziudzik Robert	1977	POL	119,30	270,0	270,0	287,5	270,0
7	Cserna Janos	1968	HUN	117,70	250,0	275,0	280,0	250,0
8	Nakamura Toshio	1970	JPN	111,70	205,0	217,5	280,0	217,5
9	Mattila Kaj	1970	FIN	114,35	210,0	225,0	230,0	210,0
10	Ryan Ian	1974	GBR	117,95	185,0	195,0	200,0	200,0
—	Leinonen Lasse	1973	FIN	119,25	302,5	302,5	305,0	DSQ

120+kg

1	Guidez Jerome	1974	FRA	150,00	310,0	322,5	322,5	322,5
2	Purev Boldbaatar	1972	MGL	136,40	300,0	300,0	305,0	305,0
3	Kretzschmar Robert	1976	GER	129,50	292,5	302,5	310,0	292,5
—	Pinc Jan	1973	CZE	126,30	300,0	305,0	305,0	DSQ
—	Snyder Jeffrey	1971	USA	136,50	342,5	345,0	345,0	DSQ

Nation (points)

1.	Japan	54	[12+12+12+9+9]	756,81 w.pts.
2.	France	50	[12+12+9+9+8]	783,69 w.pts.
3.	Poland	47	[12+12+9+7+7]	733,08 w.pts.
4.	U.S.America	37	[8+8+8+7+6]	717,53 w.pts.
5.	Czechia	23	[9+8+6]	449,17 w.pts.
6.	Germany	21	[8+6+4+3]	553,94 w.pts.

Best Lifters of Masters 1

1	Guidez Jerome	France	150,00	322,5	178,44
2	Kompelien Olav	Norway	118,30	302,5	174,51
3	Krejca Zbynek	Czechia	119,65	300,0	172,59

Masters 2

-59kg

1	Nakata Kazuo	1967	JPN	58,80	185,0	185,0-w2	195,0	185,0
2	Shiiki Tomoyoshi	1964	JPN	58,15	127,5	130,0	130,0	130,0
3	Kolsovsky Stefan	1961	SVK	58,41	120,0	130,0	135,0	130,0

-66kg

1	Waymel Olivier	1966	FRA	65,00	175,0	180,0	190,0	180,0
2	Smith Charles	1960	NED	64,90	162,5	167,5	180,0	167,5
3	Nakamura Hideaki	1960	JPN	65,70	105,0	125,0	130,0	130,0
4	Perasalo Hannu	1962	FIN	65,50	90,0	95,0	97,5	97,5

-74kg

1	Mishima Tadashi	1962	JPN	72,40	200,0	215,0	215,0	200,0
2	Prater Gary	1963	GBR	73,35	130,0	130,0	137,5	130,0
3	Piwowarczyk Marian	1961	POL	66,30	80,0	100,0	110,0	110,0

-83kg

1	Neveykov Alexey	1966	RUS	82,80	225,0-c2	233,0	237,5-w2	237,5
2	Bertin Fabrice	1967	FRA	82,90	207,5	212,5	227,5	212,5
3	Thompson Donovan	1966	USA	81,85	207,5	210,0	212,5	210,0
4	Matsuoka Toshio	1963	JPN	79,75	200,0	205,0	210,0	200,0
5	Ring Tomas	1960	SWE	82,80	195,0	202,5	212,5	195,0
6	Woschny Ingo	1965	GER	82,15	170,0	180,0	195,0	180,0
—	Milis Benjaminas	1961	LTU	82,30	185,0	185,0	185,0	DSQ
—	Kipp Wesley	1962	USA	82,35	205,0	207,5	215,0	DSQ

-93kg

1	Schnurr Mario	1966	GER	92,85	207,5	215,0	222,5	215,0
2	Jensen Henrik Bo	1967	DEN	92,10	207,5	215,0	217,5	207,5
3	Lemagnen Yves	1966	FRA	92,40	197,5	200,0	200,0	200,0
—	Cencich Thomas	1960	USA	88,40	212,5	212,5	212,5	DSQ
—	Ametani Shigeaki	1967	JPN	91,80	195,0	195,0	195,0	DSQ
—	Kerimbekov Bakyt	1961	KGZ	92,00	220,0	220,0	220,0	DSQ
—	Farstad Svein Olav	1965	NOR	92,50	235,0	235,0	235,0	DSQ

-105kg

1	Hadrysiak Mariusz	1961	POL	105,00	270,0	280,0	287,5	280,0
2	Leroy Fabrice	1963	FRA	104,00	230,0	240,0	252,5	240,0
3	Haensicke Peer	1961	GER	97,70	235,0	235,0	245,0	235,0
4	Kovalskis Vladimirs	1958	LAT	104,10	205,0	212,5	215,0	215,0
5	Julian Jason	1960	USA	103,60	202,5	210,0	210,0	202,5
6	Dabeski Mio	1965	SWE	99,95	195,0	215,0	215,0	195,0

-120kg

1	Wada Kohei	1964	JPN	113,10	295,5	295,5	295,5-w2	295,5
2	Doan David	1964	USA	118,60	282,5	292,5	296,0	282,5
3	Minelle Jean Yves	1966	FRA	118,50	250,0	250,0	260,0	250,0

4	Faass Rolf	1965	GER	115,60	185,0	192,5	200,0	200,0
5	Sullivan Ian	1960	AUS	112,65	145,0	155,0	160,0	160,0
—	Blom Robert	1966	SWE	119,40	292,5	292,5	292,5	DSQ

120+kg

1	Furesund Kjell	1966	NOR	136,20	285,0	285,0	292,5	292,5
2	Jaldefors Mikael	1966	SWE	122,75	270,0	285,0	292,5	285,0
3	Lefebvre Patrice	1962	FRA	139,60	255,0	262,5	272,5	262,5
4	Earle Randy	1962	USA	154,60	227,5	227,5	235,0	227,5
—	Fjoren Trond	1966	NOR	154,50	225,0	X	X	DSQ

Nation (points)

1.	Japan	53	[12+12+12+9+8]	695,96 w.pts.
2.	France	46	[12+9+9+8+8]	719,88 w.pts.
3.	Germany	32	[12+8+7+5]	516,50 w.pts.
4.	U.S.America	30	[9+8+7+6]	551,12 w.pts.
5.	Poland	20	[12+8]	253,38 w.pts.
6.	Sweden	20	[9+6+5]	412,07 w.pts.

Best Lifters of Masters 2

1	Wada Kohei	Japan	113,10	295,5	172,48
2	Hadrysiak Mariusz	Poland	105,00	280,0	167,33
3	Furesund Kjell	Norway	136,20	292,5	164,15

Masters 3

-59kg

1	Pavlov Savelii	1957	RUS	58,00	117,5	117,5	120,0	120,0
2	Hashimoto Masato	1957	JPN	58,00	110,0	112,5	112,5	112,5
3	Vorobjovs Jevgenijs	1953	LAT	58,15	107,5	112,5	112,5	112,5

-66kg

1	Sitruk Claude	1950	FRA	65,00	145,0	152,5	152,5	152,5
2	Kemppainen Markku	1949	FIN	65,85	105,0	110,0	115,0	115,0
3	Flink Seppo	1953	FIN	64,55	102,5	105,0	110,0	105,0

-74kg

1	Motovilnik Vasilii	1957	RUS	72,85	177,5-w3	185,0	185,0	177,5
2	Hayashi Yasuhiro	1956	JPN	72,65	160,0	165,0	178,0	165,0
3	Sides Daniel	1956	USA	73,50	152,5	155,0	167,5	155,0
4	Micius Antanas	1951	LTU	71,65	112,5	117,5	120,0	120,0
5	Macrow Stanley	1949	GBR	68,90	102,5	112,5	117,5	117,5
—	Monoe Takeshi	1952	JPN	73,10	150,0	150,0	155,0	DSQ

-83kg

1	Synstad Bjarne	1951	NOR	82,50	207,5	215,5	215,5-w3	215,5
2	Hirner Arthur	1957	GER	82,80	190,0	195,0	195,0	195,0
3	Deconinck Erick	1956	FRA	82,20	172,5	185,0	190,0	185,0
4	Lasmanis Janis	1955	LAT	77,85	172,5	172,5	175,0	172,5
5	Kuchnio Krzysztof	1956	POL	82,95	170,0	172,5	187,5	170,0
6	Collard Alain	1952	FRA	82,10	137,5	145,0	145,0	145,0
—	Van Kersbergen Jos	1957	NED	82,40	165,0	165,0	165,0	DSQ

-93kg

1	Ehrt Hans-Jurgen	1956	GER	91,55	210,0	210,0	210,0	210,0
2	Sakai Tomotaka	1957	JPN	87,50	137,5	147,5	160,0	147,5

-105kg

1	Mentel Stanislaw	1954	POL	93,95	230,0	236,5-w3	240,0-w3	240,0
2	Flett Martin	1956	GBR	96,25	100,0	X	X	100,0
—	Grabowski Wojciech	1951	POL	102,90	236,0	236,0	237,0	DSQ

-120kg

1	Iversen Bjorn	1955	SWE	105,50	200,0	212,5	217,5	212,5
2	Vermeulen Marius	1957	NED	105,05	210,0	210,0	215,0	210,0
3	May Karl-Heinz	1953	GER	115,20	185,0	195,0	200,0	195,0
4	Fuglsang Allan	1950	DEN	110,20	185,0	192,5	195,0	185,0
5	Crawford Robert	1951	USA	118,40	155,0	167,5	187,5	167,5

120+kg

1	Schwanke Eberhard	1953	GER	141,90	225,0	245,0-w3	247,5	245,0
2	Reinholds Dainis	1951	LAT	123,50	235,0	235,0	235,0	235,0
3	Randmae Raul	1948	EST	145,00	180,0	190,0	195,0	190,0

Nation (points)

1.	Germany	41	[12+12+9+8]	513,18 w.pts.
2.	Japan	27	[9+9+9]	314,86 w.pts.
3.	France	25	[12+8+5]	342,90 w.pts.

Best Lifters of Masters 3

1	Mentel Stanislaw	Poland	93,95	240,0	150,05
2	Synstad Bjarne	Norway	82,50	215,5	144,36
3	Schwanke Eberhard	Germany	141,90	245,0	136,64

Masters 4**-59kg**

1	Hamayama Hisao	1947 JPN	57,80	115,0	120,5	120,5-w4	120,5
2	Gallart Pierre	1944 FRA	58,40	100,0	110,0	117,5	110,0
3	Otaki Masami	1942 JPN	53,95	80,0	85,0	90,0	85,0

-66kg

1	Danyasu Tadanobu	1944 JPN	64,20	125,0	130,0	130,0	125,0
2	Tsukuda Tadakazu	1944 JPN	64,20	115,0	122,5	127,5	115,0

-74kg

1	Yamamoto Shigeki	1943 JPN	72,50	145,0	152,5	155,0-w4	155,0
2	Dernoncourt Michel	1946 FRA	73,40	145,0	150,0	155,5	145,0
3	Maka Boleslaw	1942 POL	73,80	145,0	150,0	151,5	145,0

-83kg

1	Imaizumi Haruki	1947 JPN	80,45	157,5	157,5-w4	165,0	157,5
2	Settles Mike	1944 USA	81,00	140,0	145,0	147,5	145,0
3	Lorenz Horst	1940 GER	77,10	127,5	130,0	135,0	135,0
4	Lee Alexander	1944 GBR	77,75	135,0	140,0	140,0	135,0

-93kg

1	Agadzhanjans Georgijs	1946 LAT	89,85	150,0	155,0	157,5	157,5
2	Komppa Seppo	1945 FIN	92,00	150,0	155,0	157,5	157,5
3	Fabrie Adriaan	1946 NED	92,00	125,0	130,0	135,0	135,0
4	Mannisto Veikko	1940 FIN	91,75	115,0	120,0	130,0	120,0

-105kg

1	Helmich William	1942 USA	100,45	135,0	137,5	145,0	137,5
2	Rohrbacher Adolf	1938 AUT	93,17	110,0	115,0	115,0	110,0
3	Laurits Mihkel	1944 EST	99,85	100,0	142,5	145,0	100,0

-120kg

1	Mracek Franz	1947 AUT	113,75	135,0	145,0	150,0	150,0
2	Nakciunas Edvardas	1944 LTU	108,10	115,0	125,0	145,0	125,0

120+kg

1	Alksnitis Valdis	1941 LAT	140,10	190,0	195,0	203,0-w4	203,0
---	------------------	----------	--------	-------	-------	----------	-------

Nation (points)

1.	Japan	57	[12+12+12+12+9]	519,54 w.pts.
2.	Latvia	24	[12+12]	214,04 w.pts.
3.	U.S.America	21	[12+9]	181,75 w.pts.
4.	Austria	21	[12+9]	156,46 w.pts.
5.	France	18	[9+9]	201,10 w.pts.
6.	Finland	16	[9+7]	175,34 w.pts.

Best Lifters of Masters 4

1	Alksnitis Valdis	Latvia	140,10	203,0	113,42
2	Yamamoto Shigeki	Japan	72,50	155,0	113,15
3	Imaizumi Haruki	Japan	80,45	157,5	107,15

女子の部**Open****-47kg**

1	Sitdikova Aigul	1989 RUS	46,85	115,0	120,0	122,5	122,5
2	Kozdryk Justyna	1980 POL	44,50	105,0	112,5	120,0	120,0
3	Murzina Maryna	1995 UKR	46,90	90,0	92,5	100,0	92,5
4	Kolyadenko Mariana	1991 UKR	46,55	80,0	90,0	92,5	80,0

-52kg

1	Rantala Hanna	1982 FIN	51,45	122,5	127,5	132,5	132,5
2	Zadorina Yana	1982 RUS	49,55	120,0	125,0	130,0	130,0
3	Sandvik Marcela	1974 FIN	51,50	120,0	125,0	130,0	125,0
4	Najera Juanita	1981 USA	51,50	95,0	100,0	102,5	102,5
5	Shuttleworth Maura	1976 USA	51,90	100,0	102,5	127,5	102,5

-57kg

1	Kotkova Larisa	1974 RUS	56,75	152,5	157,5-w1	162,5-w1	162,5
2	Petrova Anastasia	1985 RUS	55,70	145,0	152,5	160,0	152,5
3	Steel Ellie	1991 GBR	56,60	125,0	132,5	140,0	140,0
4	Sroczyk Monika	1992 POL	56,40	110,0	122,5	125,0	110,0

-63kg

1	Von Bachhaus Gundula Fiona	1981	GER	62,70	162,5	167,5	185,0	167,5
2	Hauksdottir Fanney	1992	ISL	62,10	152,5	152,5	157,5	157,5
3	Arvidson Karolina	1985	SWE	60,15	117,5	120,0	127,5	127,5
4	Jordan Faye	1982	GBR	61,05	90,0	97,5	102,5	90,0
5	Zapior Magda	1980	POL	60,35	65,0	70,0	75,0	70,0
—	Okutani Yuka	1984	JPN	62,10	115,0	115,0	115,0	DSQ

-72kg

1	Melnyk Tetyana	1985	UKR	72,00	160,0	167,5	175,0	175,0
2	Chistiakova Yulia	1989	RUS	69,50	157,5	165,0	172,5	172,5
3	Hammarstrom Andrea	1977	SWE	70,85	160,0	160,0 ^{-w1}	167,5	160,0
4	Hoas Katrine	1992	NOR	72,00	142,5	150,0	155,0	155,0
5	Kabiyeva Zhadyra	1992	KAZ	69,70	140,0	140,0	150,0	150,0
6	Krokeide Ruth Kari	1989	NOR	70,40	140,0	145,0	150,0	150,0
7	Silberzahn Cathrin	1988	GER	69,50	132,5	137,5	145,0	137,5
8	Scholz Ina	1978	GER	67,25	120,0	125,0	130,0	130,0
9	Drabalkova Michaela	1989	CZE	71,35	122,5	127,5	130,0	122,5
10	Cowell Kimberley	1988	GBR	71,50	105,0	112,5	115,0	112,5
—	Marchenko Antonina	1989	UKR	69,85	150,0	150,0	150,0	DSQ
—	Mizoguchi Kumi	1988	JPN	70,80	170,0	170,0	170,0	DSQ

-84kg

1	Josefsson Sofie	1992	SWE	79,45	170,0	175,0	180,0	180,0
2	Protchenko Lyudmila	1986	RUS	84,00	175,0	175,0	180,0	180,0
3	Strik Ielja	1973	NED	83,25	175,0	177,5	177,5	175,0
4	Baranova Ekaterina	1992	RUS	83,70	165,0	172,5	177,5	165,0
5	Roeder Vivien	1988	GER	75,00	137,5	145,0	150,0	150,0
6	Wik Frida	1991	SWE	78,15	150,0	155,0	175,0	150,0
7	Broxtermann Katja	1986	GER	73,20	107,5	112,5	115,0	112,5
8	Mahon Orla	1984	GBR	82,10	92,5	100,0	107,5	107,5

84+kg

1	Szabo Agnes	1988	HUN	115,40	190,0	195,0	202,5	202,5
2	Lonn Sandra	1974	SWE	119,10	180,0	192,5	202,5	202,5
3	Rehoff Christensen Annette	1965	DEN	123,95	185,0	195,0	205,0	195,0
4	Berry Laura	1982	GBR	95,05	142,5	152,5	155,0	152,5

Nation (points)

1.	Russia	51	[12+12+9+9+9]	875,15 w.pts.
2.	Sweden	42	[12+9+8+8+5]	766,33 w.pts.
3.	Germany	29	[12+6+4+4+3]	702,26 w.pts.
4.	Ukraine	27	[12+8+7]	403,73 w.pts.
5.	Great Britain	26	[8+7+7+3+1]	598,72 w.pts.
6.	Poland	22	[9+7+6]	374,09 w.pts.
—	Japan	—		

Best Lifters of Open

1	Kotkova Larisa	Russia	56,75	162,5	189,22
2	Von Bachhaus Gundula Fiona	Germany	62,70	167,5	180,55
3	Petrova Anastasia	Russia	55,70	152,5	180,19

Sub-Juniors

-43kg

1	Volodko Ekaterina	2001	RUS	42,70	67,5	70,0	72,5	72,5
2	Popova Kristina	2001	KAZ	42,90	67,5	72,5	75,0	67,5

-47kg

1	Dmitrieva Rada	1999	RUS	44,90	60,0	62,5	65,0	65,0
2	Mularczyk Sylwia	2000	POL	46,30	55,0	60,0	62,5	62,5
3	Romanova Yana	2002	KAZ	46,10	52,5	55,0	60,0	60,0

-52kg

1	Omarkhanova Saniya	1999	KAZ	51,80	80,0	87,5	92,5	87,5
2	Kasprzyk Maria	1999	POL	50,80	45,0	47,5	50,0	50,0

-57kg

1	Kolesnik Daniela	1999	RUS	56,70	130,0	135,0	140,5 ^{-ws}	140,5
2	Dyachenko Taissiya	2000	KAZ	56,40	120,0	130,0	130,0	120,0

-63kg

1	Vakhrameeva Daria	2000	RUS	60,90	115,0	125,0	133,0 ^{-ws}	133,0
2	Graham Madalyn	1999	USA	59,75	95,0	105,0	110,0	110,0
3	Turakeviciute Egle	1999	LTU	61,85	95,0	100,0	107,5	107,5
4	Trojnar Aleksandra	1999	POL	62,20	75,0	80,0	85,0	80,0

-72kg

1	Zhurbina Anastassiya	1999	KAZ	63,40	117,5	122,5	130,0	122,5
2	Mikryukova Anna	1999	RUS	63,05	110,0	112,5	115,0	115,0
3	Ochs Camryn	1999	USA	69,90	90,0	95,0	102,5	95,0
4	Firek Zuzanna	2000	POL	63,20	90,0	95,0	97,5	90,0
5	Rautiainen Elli	1999	FIN	65,25	85,0	90,0	97,5	90,0
6	Kozar Viktoriya	2001	UKR	64,70	80,0	85,0	85,0	80,0

-84kg

1	Nesterenko Olesia	2001	RUS	72,85	105,0	110,0	115,0	115,0
2	Stafslien-Dumale Abigail	2000	USA	83,45	110,0	112,5	117,5	112,5
3	Chetvernina Daria	2000	RUS	81,20	90,0	97,5	102,5	97,5
—	Szabo Lili	2000	HUN	75,00	92,5	92,5	97,5	DSQ

84+kg

1	Meier Regina	1999	KAZ	92,30	120,0	127,5	135,0	135,0
2	Botkova Michaela	2000	SVK	93,25	120,0	130,0	137,5	130,0

Nation (points)

1.	Russia	60	[12+12+12+12+12]	616,05 w.pts.
2.	Kazakhstan	54	[12+12+12+9+9]	592,86 w.pts.
3.	Poland	32	[9+9+7+7]	331,60 w.pts.
4.	U.S.America	26	[9+9+8]	318,29 w.pts.
5.	Slovakia	9	[9]	110,77 w.pts.
6.	Lithuania	8	[8]	117,08 w.pts.

Best Lifters of Subjuniors

1	Kolesnik Daniela	Russia	56,70	140,5	163,71
2	Vakhrameeva Daria	Russia	60,90	133,0	146,58
3	Dyachenko Taissiya	Kazakhstan	56,40	120,0	140,41

Juniors**-47kg**

1	Shlopko Tetyana	1996	UKR	46,25	87,5	92,5	100,0	100,0
2	Gerasimova Olga	1995	RUS	46,55	85,0	90,0	90,0	90,0
3	Burova Mariia	1995	RUS	46,80	85,0	90,0	90,0	90,0
4	Warren Sabra	1996	USA	44,05	80,0	85,0	85,0	80,0
5	Petra Csena	1996	HUN	46,35	50,0	50,0	60,0	60,0
6	Szymczykowska Aleksandra	1998	POL	46,85	60,0	62,5	62,5	60,0

-52kg

1	Sroczyk Marta	1995	POL	51,30	110,0	115,0	117,5	115,0
2	Shkaraputa Iryna	1994	UKR	49,80	90,0	95,0	100,0	95,0
3	Petukhova Alesia	1997	RUS	51,80	82,5	87,5	97,5	87,5
4	Kettlewell Krystie	1996	USA	51,80	70,0	70,0	90,0	70,0

-57kg

1	Tolegenova Aliya	1996	KAZ	56,20	112,5	115,0	117,5	117,5
2	Patino Jodel	1997	USA	56,90	100,0	100,0	115,0	115,0
3	Odnokozova Kristina	1996	RUS	55,19	90,0	90,0	92,5	90,0
4	Sakura Yuki	1995	JPN	56,60	85,0	92,5	100,0	85,0
—	Rikhelgof Tatiana	1997	RUS	55,90	102,5	102,5	102,5	DSQ

-63kg

1	Vilmar Matilda	1996	SWE	62,45	117,5	122,5	130,0	122,5
2	Grant Gabriella	1994	USA	62,90	107,5	110,0	110,0	110,0
3	Chykalina Yuliia	1998	UKR	58,55	100,0	105,0	107,5	107,5
4	Baksyte Simona	1995	LTU	60,10	80,0	85,0	90,0	85,0
—	Nowak Klaudia	1998	POL	62,35	100,0	100,0	107,5	DSQ

-72kg

1	Erokhina Mariia	1995	RUS	71,20	122,5	127,5	132,5	132,5
2	Johansson Emma	1996	SWE	67,55	125,0	130,0	130,0	130,0
3	Ross Danielle	1995	USA	70,00	130,0	130,0	130,0	130,0
4	De Vries Maaïke	1994	NED	71,20	112,5	120,0	127,5	120,0

-84kg

1	Pokazaneva Iana	1995	RUS	83,10	137,5	142,5	142,5	142,5
2	Maalouf Nicole	1994	USA	73,30	130,0	130,0	137,5	137,5
3	Lowe Jessica	1996	SWE	74,80	132,5	137,5	137,5	132,5
4	Shashkova Darya	1997	UKR	78,00	120,0	127,5	132,5	127,5

84+kg

1	Lovas Monika	1994	HUN	118,80	145,0	155,0	162,5	162,5
2	Didenko Tatiana	1997	RUS	85,50	110,0	110,0	115,0	115,0

Nation (points)

1.	Russia	50	[12+12+9+9+8]	603,03 w.pts.
2.	U.S.America	42	[9+9+9+8+7]	626,43 w.pts.
3.	Ukraine	36	[12+9+8+7]	498,97 w.pts.
4.	Sweden	29	[12+9+8]	391,21 w.pts.
5.	Hungary	18	[12+6]	211,68 w.pts.
6.	Poland	17	[12+5]	225,75 w.pts.
7.	Kazakhstan	12	[12]	137,86 w.pts.
8.	Netherlands	7	[7]	118,01 w.pts.
9.	Japan	7	[7]	99,18 w.pts.

Best Lifters of Juniors

1	Sroczyk Marta	Poland	51,30	115,0	144,87
2	Tolegenova Aliya	Kazakhstan	56,20	117,5	137,86
3	Shlopko Tetyana	Ukraine	46,25	100,0	136,05

Masters 1**-47kg**

1	Yogo Terumi	1969 JPN	45,85	77,5	82,5	87,5	82,5
2	Ronkainen Katja	1973 FIN	46,80	40,0	45,0	50,0	45,0

-52kg

1	Ito Yumiko	1976 JPN	51,50	60,0	70,0	80,0	70,0
---	------------	----------	-------	------	------	-----------------	------

-57kg

1	Descours Veronique	1971 FRA	56,75	87,5	92,5	92,5	87,5
2	Tahkanen Tarja	1969 FIN	55,00	50,0	55,0	60,0	60,0

-63kg

1	Maniez Christelle	1975 FRA	61,75	115,0	120,0	127,5	120,0
2	Izindre Annelie	1972 SWE	59,20	105,0	115,0	120,0	105,0
3	Gerute Lina	1976 LTU	60,80	50,0	60,0	60,0	50,0

-72kg

1	Pedersen Annette	1968 DEN	69,85	107,5	112,5	117,5	117,5
2	Holzer Frieda	1968 GER	71,60	115,0	117,5	120,0	115,0
3	Kirkland Wendie	1972 GBR	70,20	90,0	97,5	115,0	97,5

-84kg

1	Bastien Stephanie	1974 FRA	81,75	117,5	122,5	132,5	122,5
2	Dalia Angelique	1972 FRA	77,20	97,5	102,5	107,5	107,5
3	Williams Rebecca	1976 GBR	74,85	87,5	92,5	102,5	87,5
4	Nakari Susanna	1968 FIN	81,75	70,0	72,5	72,5	70,0
—	Engskar Eva	1973 NOR	82,95	175,0	175,0	175,0	DSQ

84+kg

1	Lair Rebekah	1976 USA	106,65	147,5	152,5	160,0	160,0
2	Nokua Katariina	1973 FIN	109,30	147,5	155,0	162,5	147,5
3	Whiteley Jo	1970 GBR	109,40	120,0	125,0	135,0	125,0
4	Skaviciene Zeneta	1976 LTU	115,65	125,0	125,0	137,5	125,0
5	Komatsu Mami	1969 JPN	109,35	105,0	115,0	125,0	115,0

Nation (points)

1.	France	45	[12+12+12+9]	443,93 w.pts.
2.	Finland	34	[9+9+9+7]	315,70 w.pts.
3.	Japan	30	[12+12+6]	294,47 w.pts.

Best Lifters of Masters 1

1	Lair Rebekah	U.S.America	106,65	160,0	130,99
2	Maniez Christelle	France	61,75	120,0	130,86
3	Nokua Katariina	Finland	109,30	147,5	120,10

Masters 2**-47kg**

1	Feraud Nathalie	1967 FRA	46,70	77,5	82,5	82,5	77,5
2	Shibata Masami	1965 JPN	46,40	60,0	65,0	77,5	65,0

-52kg

1	Teramura Mika	1962 JPN	51,50	85,0	87,5	90,0	90,0
2	Landon Brigitte	1961 FRA	49,90	70,0	72,5	75,0	72,5

-57kg

1	Sakamaki Tomoko	1965 JPN	55,10	95,0	100,0	124,5	100,0
2	Blessington Karen	1960 USA	55,80	75,0	77,5	80,0	77,5
3	Pajuharju Eira	1964 FIN	54,35	70,0	75,0	77,5	70,0

-63kg

1	Uppala Tarja	1965 FIN	62,90	100,0	100,0	102,5	102,5
2	Maciejewski Patricia	1961 FRA	63,00	92,5	97,5	102,5	102,5
3	Angenot Sophie	1966 FRA	61,20	82,5	85,0	85,0	82,5

4	Franklin Michelle	1966	GBR	59,25	65,0	70,0	82,5	70,0
-72kg								
1	Haeuser Ursula	1960	GER	70,90	95,0	102,5	107,5	95,0
2	Skogman Seija	1965	FIN	69,85	72,5	75,0	75,0	75,0
3	Leroy Aline	1962	FRA	70,30	67,5	70,0	75,0	70,0
—	Kudo Chieko	1967	JPN	66,60	100,0	100,0	105,0	DSQ

-84kg								
1	Halvarsson Asa	1961	SWE	76,95	97,5	102,5	107,5	107,5
2	Einarsen Lene	1963	NOR	81,85	92,5	97,5	105,0	105,0
3	Vidziuniene Giedre	1966	LTU	72,80	75,0	75,0	85,0	85,0

84+kg								
1	Calhoun Paulette	1958	USA	103,70	82,5	105,0	112,5	112,5

Nation (points)

1.	France	46	[12+9+9+8+8]	468,09 w.pts.
2.	Japan	33	[12+12+9]	320,43 w.pts.
3.	Finland	29	[12+9+8]	269,26 w.pts.

Best Lifters of Masters 2

1	Sakamaki Tomoko	Japan	55,10	100,0	119,16
2	Teramura Mika	Japan	51,50	90,0	113,04
3	Uppala Tarja	Finland	62,90	102,5	110,22

Masters 3

-47kg								
1	Kemppainen Pirjo	1951	FIN	46,70	30,0	35,0	37,5	35,0

-52kg								
1	Knutars Aira	1954	FIN	51,45	72,5	80,0	82,0	80,0

-57kg								
1	Nagao Yuko	1950	JPN	54,80	40,0	85,0	85,0	40,0

-63kg								
1	Komi Yoshiko	1955	JPN	62,00	105,0	105,0	105,0	105,0
2	Herbin Evelyne	1956	FRA	62,65	80,0	85,0	85,0	85,0

-72kg								
1	Sawa Chiyomi	1949	JPN	70,80	100,0	110,0	128,0	110,0
2	Liege Marie Christine	1955	FRA	67,00	70,0	75,0	77,5	75,0

-84kg								
1	Takacova Hana	1954	CZE	82,50	120,0	127,5	127,5	127,5

Nation (points)

1.	Japan	36	[12+12+12]	270,60 w.pts.
2.	Finland	24	[12+12]	147,84 w.pts.
3.	France	18	[9+9]	168,63 w.pts.
4.	Czechia	12	[12]	114,75 w.pts.

Best Lifters of Masters 3

1	Takacova Hana	Czechia	82,50	127,5	114,75
2	Komi Yoshiko	Japan	62,00	105,0	114,15
3	Sawa Chiyomi	Japan	70,80	110,0	108,58

Masters 4

-47kg								
1	Kumpuniemi Eila	1942	FIN	46,25	40,0	47,5	52,5-c4	52,5

-52kg								
1	Heligon Francoise	1943	FRA	51,10	55,0	57,5	62,5	62,5
2	Furukawa Yoshiko	1939	JPN	51,55	45,0	45,0	64,5	45,0

-57kg								
1	Burns Bebe	1942	USA	52,65	40,0	45,0	47,5	47,5
2	Johnson Denise	1947	USA	53,50	32,5	35,0	37,5	37,5

-72kg								
1	Greiner Ilona	1946	GER	64,80	60,0	62,5	65,0	60,0

Nation (points)

1.	U.S.America	21	[12+9]	104,38 w.pts.
2.	France	12	[12]	78,97 w.pts.
3.	Finland	12	[12]	71,43 w.pts.
4.	Germany	12	[12]	63,09 w.pts.
5.	Japan	9	[9]	56,47 w.pts.

Best Lifters of Masters 4

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1	Heligon Francoise	France	51,10	62,5	78,97
2	Kumpuniemi Eila	Finland	46,25	52,5	71,43
3	Greiner Ilona	Germany	64,80	60,0	63,09